

「緊急事態宣言たるヨガの眠り」

坂口 裕靖

2回目の緊急事態宣言中なわけですが、気になるのは「コロナに勝つために」という言説です。まあもしかしたら、本気でそう考えてるのかもしれませんが、おそらくはいわゆる「民心慰撫」の部類であって、ポジショントークなのだと思います。いやいや、いくら緊急事態宣言出してもコロナには勝てませんから。そんなの当たり前じゃないですか、ねえ？こんな言明が慰撫になると思われてる時点で、我々舐められまくってますなあ。

コロナに勝つためには、実効再生産数を1.0より低く保ちつつ、コロナ陽性のヒトをうまく具合に物理的に囲い込んで、陰性のヒトにうつさないようにすることで、SARS-CoV-2が絶滅するように仕向けるか、たとえウィルスに感染しても covid-19 が発症せず、ウィルスを拡散しなくてすむ

ように、十分多くの人々がワクチンを接種するしかないでしょう。囲い込み作戦は全世界で同時に行わない限りは、汚染地域から誰かが来る都度振り出しに戻るため、長期間の鎖国を前提としないと難しいでしょう。全世界で同時にとは言っても、食うや食わずの生活をしてるところに潤沢なPCR検査を実施する資源なんてないでしょうから、実際には一律の実行など不可能です。一方でワクチンの方は動き出しているのですが、こちらを期待する方がはるかに良さそうです。国内で十分接種が進んだあと、囲い込みできてない国からの来訪者について個別に隔離するなどの施策が打てるようになるかもしれません。破傷風の予防接種と一緒にすよね。

いずれにしろ、2021年初頭において、緊急事態宣言に期待する効果は「コロナの

巻き添えを食らって緊急医療が機能しない現状を緩和する」の一点しかないでしょう。少なくとも万の単位で自宅療養している現状は、コロナと戦う医療資源が存在しないことを表していると思えません。勝つどころの話じゃないわけです。一方でコロナ以外の緊急医療はコロナと相関関係なく発生し、救えたはずの命が救えない状況になっています。今やるべきはワクチンが行き渡るまでの時間稼ぎであり、その時間稼ぎの期間中、救える命を救える状況を維持しなくてはなりません。「コロナに勝つため」ではなく、「コロナに負けない」ための施策しか打てないわけです。ということを引きちんと伝えて、理解できない有権者ではないと思うんですがね。それを「コロナに勝つため今は我慢」とか言われたら、この1ヶ月我慢すればコロナが消えるような言い方

One Point BUZZ WORD

第45代

ドナルド・トランプは第45代アメリカ合衆国大統領だったわけですが、スーパー戦隊シリーズも今度の3月に始まるゼンカイジャーで45作目のようです。我々はこの2つがシンクロする絶妙な時代を生きているというわけですね。まあ、時間スケールが4倍違うので、46代目以降、よほどのことでもない限り交わることは難しいでしょうな。桑原桑原。

リアルタイムにバトルフィーバーを見ていた世代からするとちょっと意外だったのですが、スーパー戦隊シリーズはゴレンジャーから数えることになったようです。一方でレオパルドンが外れているのは…まあ仕方ないか。蜘蛛だし。日本とか世界とか地球とかが、毎年入れ替わる各種戦隊により守られ続けてきたわけですね。同時に大人の事情として関連玩具の売り込みというものが

あるわけですが、実はこの辺の周辺環境が変わってきつつあるのではないかとされます。

従来であればテレビ放送が終わる前にクリアランスセールが始まり、同時に新番組玩具の予約販売が始まったりするわけですが、このコロナのご時世でテレビのみならず、各種コンテンツにふれる機会が増えており、そうすると過去の戦隊シリーズに接触することも増えていくわけです。いわゆるロングテールというやつですね。そうすると、例えばロボットの肩に突き刺した剣を仁王立ちになって操縦するという、むちゃくちゃな設定のニンニンジャーのおもちゃが欲しくなったりするわけじゃないですか。でも、ニンニンジャーは第39代とずいぶん前の作品であり、残念ながら大部分のおもちゃは在庫切れで入手不能、どうしても欲しければオークションサイトとかで入手するしかなかったりするわけです。鑑賞できるのにおもちゃ入手が困難というギャップ、ガンブラ並みに解消する日が来ることを祈りたいものです。ところでキラメイジャーが終わるのは悲しい…諸行無常。

じゃないですか。そんなことはあり得ないのに、平気で言いのけられるのがちょっと不思議です。[今は我慢]の今というのは、現実的にはワクチン接種が十分行われる期間を意味しており、現時点ではそれが半年なのか数年なのかはわかりません。でも、少なくとも1ヶ月でなんとかなるものではないのは確実です。「そんな悲観的なこと言われても耐えられない」とかいう意見があるかもしれませんが、この1ヶ月、歯を食いしばって耐え凌げばすべて解決すると信じていたのに、明けてみたらどうにもならなかったのが明らかになり、耐え忍んだ自分が割食ただけというのが判明した場合の落胆の方が大きいんじゃないですかね？違うんですか、そうですか。そりゃ失礼しました。

緊急事態宣言でどこまで押さえ込めばいいかという、本当はコロナに駆り出された他部署のお医者さん・看護師さんがたが元の職場に戻る程度の医療資源で処理できる分量にまで少なくしないと、長期間維持することはできません。というか、実際にはこれに加えてワクチン接種のリソースが食われるわけですから、そこまで落とさないと時間を稼ぐことは不可能です。こんな厳しい目標、1ヶ月では達成できないんじゃないのでしょうか。というか、そもそも自粛で達成できるのでしょうか。いやできません。その意味で、緊急事態宣言の発令自体がそもそもポーズでしかなく、本気でなんとかしようとは思ってないと勘ぐられても仕方ないでしょう。それに加えて「勝つために」とか「打ち勝った証」とか言われても、ねえええ。

まあ実際には「救える命を救える状況を維持」しなきゃいけないのか、という部分で異論がありえます。この制限を無視でき

るのであれば、そもそも緊急事態宣言うんぬんなど必要なかったりもするわけです。現状 covid-19 に罹患しても根本治療することができない以上、治るかどうかは患者本人次第、すなわち「自助」であるとするならば、covid-19 の患者が増えてどんどん悪化してもそもそもどうしようもないんだから知らんぷりできる、という論理なのでしょう。まあそういった向きには都合良いことに、covid-19 は急速に悪化して死に至る場合があるわけで、「急変するとは夢にも思いませんでした」という言い訳が通用するわけです。いや知ってるでしょう、何人亡くせば夢に出てくるんだよとか思うわけですが。

市井がなんとかコロナと折り合いをつけようとして黙食だ孤食だ営業時間短縮だと懸命に対策している最中に、ガンガン会食だのパーティだのすることができるのは、ここいらへんの立ち位置なのかもしれません。でもね、それってレインボーマンの「死ね死ね団」ですがな。今の子は知らんだろうけど。まあ実際、陽性とわかればすぐに入院できる状況が確保されているのであれば、ちっとも脅威でないのは確かです。その分医療資源を食い散らかすわけですが、我が身は可愛いのかな、やっぱり。他人も我が身を可愛く思うと想像できればいいんだけど、難しいんでしょうな。まあ問題はそういった向きが民意を代表できるか、ということかな。

いずれにしろ緊急事態宣言が実施されて、それが効果を生んでいるかどうかを確認するためには、新規患者の発生数や重傷者数などが使われているわけですが、これらが常に同じ条件で測定されてるかは大変重要なのではないのでしょうか。もちろん個々の保健所の担当者が職務に忠実にマニュアル

通り粛々と実行しているのですが、そもそも集計ロジックが変わってしまうと、値の連続性が維持されず、同じ基準で判断することができません。入院しない陽性者を処罰するとか言ってますが、恣意的にこれら条件を変化させることの方がよっぽど悪質な気がします。そこはビシッと刑事罰なりなんなりで予防しておくべきじゃないんですかね。人出が減らないのに新規感染者がぐっと減ってるのって、一つはクリスマスイブから年末にかけてのイベントが終了したあとというのが大きいんだろうけど、なんかちょっと都合よく下がり過ぎな気がしたりしますよね。特に色々改ざんが疑われる事例とか眼にすると、どうしても疑心暗鬼になりますわな。これも自分可愛さということなのかしら。

コロナに対応して、本社ビルを手放す動きが加速しているように見えます。実際にはファイナンス的な意味合いが大きいのもかもしれませんが、本社ビルという考え方自体に変化が起こりつつあるようにも思えます。対面が前提であるなら、対面を実行するコストが低いと、東京にいることは大変な価値を持っていますが、対面が巨大なリスクになるのだとしたら、東京にいる意味はないかもしれません。ましてや情報を主とするビジネスであるならば、ほぼほぼネットで連携すれば済んでしまうわけですから、リソースを物理的に一箇所に集約する必要はなさそうです。特にこれからの子どもたちはデジタルネイティブなので、本社のアドレスが URL になるのが当たり前になるんじゃないでしょうか。

Hiroyasu Sakaguchi
株式会社 IMAGICA Lab.